

博物館領域と公園領域の重複の背景と課題

堀江 典子

【要旨】

近年、博物館領域と公園領域が空間的にも機能的にも名称的にも重なってきている。本研究では、博物館と公園の重複の背景と現状を、博物館の公園化、公園の博物館化、及び上記いずれにも納まらない第三の領域に分けて捉えたうえで、重複による課題を第一に予算的・体制的裏づけがないなかでの機能拡大・多機能化が何をもたらすか、第二に評価をどう考えるべきか、第三に重複によるイメージの混乱はないのか、と言う観点から考察した。

【キーワード】

博物館、公園、機能、重複、野外展示

他施設との比較から見た国営公園ボランティアの意識について

森本 千尋

【要旨】

国営公園 14 公園で活躍するボランティア団体（70 団体、登録者数 3,203 人）の活動者の意識と、他施設で植物の手入に特化したボランティア団体（都立木場公園友の会）および利用者に対する案内・解説に特化したボランティア団体（明治村ボランティア会、リトルワールド・ボランティアガイド）の活動者の意識を比較し多様なボランティア活動が展開される国営公園のボランティアの特殊性の有無や、ボランティア活動に共通する普遍性を探った。参加動機として博物館施設ボランティアは「知識・見識を広げる」、木場公園友の会は「緑に関心がある」の回答が多いのに対し、国営公園はその両方が参加動機の上位にあるというように、国営公園は2種類の施設の要素を併せ持っているといえる。各施設に共通する課題として、活動者と公園との認識の共有、目標・計画とともに成果や評価についての説明責任、参加者の満足度・学習意欲等に対する支援、ボランティア活動の評価能力の重要性が確認できた。

【キーワード】

ボランティア、国営公園、アンケート調査

国営公園における樹木の生育不良の現状と改善に向けた今後の課題について

大浦 康史

【要旨】

国営公園における樹木の適正な管理に向け、樹木の生育不良の現状を把握するとともに、その改善に向けた取り組みを整理し、今後の課題について考察した。国営公園における樹木の生育不良は、「土壌の固結」、「排水性が悪い」、「有効土層の不足」など土壌環境に起因するケースが多く、その改善に向けた土壌改良の手法は多岐に渡る。今後、これら生育不良樹木の改善に向けた課題として、公園利用者の安全性確保を第一に、明確な樹木管理方針を設定し、長期的な管理計画に基づき管理を行うとともに、継続的な管理データを蓄積し管理に反映させることが重要である。

【キーワード】

国営公園、樹木管理、土壌改良、植栽基盤

国営公園ガイドマップに使用するピクトグラムの適切な寸法について

小山 直人

【要旨】

本研究は、平成 18 年 12 月に施行された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー新法）をふまえ、国営公園ガイドマップで使用するピクトグラムの適切な寸法について考察したものである。標準化されたピクトグラムの最小寸法をそのまま国営公園ガイドマップ上に配置すると、ピクトグラムがマップを覆う面積が大きくなり、ピクトグラムの意味する「施設」等の情報と、マップ上の「位置」の情報が繋がらないことが問題となる。そのため、標準化されたピクトグラムの最小寸法を定めた根拠を明確にして、さらに小さく使用する場合の寸法について試算するとともに、実際にマップ上に配置したピクトグラムの寸法の視認性試験を行うことで、国営公園ガイドマップに使用するピクトグラムの適切な寸法について考察した。

【キーワード】

ピクトグラム, ガイドマップ, バリアフリー, ユニバーサルデザイン

英国における公園・緑地の評価顕彰制度の取り組み等に関する調査

安達 明彦 田代 順孝

【要 旨】

「グリーンフラッグアワード」とは、英国国内の公園緑地を客観的に評価し顕彰する制度で、公園緑地の質の向上と向上した質のレベルを落とさずに維持していく「高品質な公園管理運営」の継続性を図ることを目的に 1996 年に創設された。かつて 1980 年代には公園緑地に対する予算が削減され、公園緑地の管理レベルが低下した。その一方、政府が“Livability”（住みやすさ、生活環境の質の向上）を政策として取り入れたことにより、市民も生活環境の質の向上に寄与する公園緑地に目を向け始め、質の高い公園緑地を求める声が大きくなった。また、政府も「グリーンフラッグアワード」がこの政策を進めるにあたり重要な役割を担う制度であることを認識し、アワード受賞数を具体的な数値目標とするなど「国家的規準」として位置づけられるようになった。これらを受け、アワードへの申請及び受賞数も年々増えているが、申請にあたっては、マネジメントプランの策定が義務付けられており、審査項目に関する取り組みがプランに盛り込まれ、実行され、評価を受けることにより管理の質が向上していく効果が表れている。

【キーワード】

評価, 顕彰, マネジメントプラン, 公園管理の品質向上

市民参加型展示づくりに関する基礎調査

森本 千尋

【要旨】

公園の魅力や緑の意義などを市民自身が発見、確認し、人々に伝えていくための手法として、博物館等の実践が報告されている「市民参加型展示」の導入の可能性について検討することを目的として、博物館での実践事例について資料調査およびヒヤリング調査を行った。そして、これら事例調査に基づき、市民参加展示のプロセスの整理を行うとともに、実施上の課題、特徴などをまとめた。展示制作までの時間、博物館と市民相互の理解、市民参加で行う範囲、活動を通じての館に対する理解の向上などについての知見が得られた。

【キーワード】

市民参加, 展示, 博物館

都市公園の管理運営における市民参加状況について

(平成 20 年度自主研究 全国公園管理実態調査 概要報告)

森本 千尋

【要旨】

公園管理における「市民参加・ボランティア活動」の実態を把握するため、271 自治体を対象にアンケート表の送付・回収により調査を行った。公園愛護会等の地縁団体型の参加形態は街区公園を中心に定着しているが、活動者の高齢化、コミュニティの変化などを背景に一部活動の低調化が見られる。一方、企業、学校等の各種団体や個人の参加によるアドプト制度や、個人や任意の団体の活動参加を支援する仕組みなども取り入れ、地縁団体以外の活動層の広がりが見られるとともに、活動内容も清掃・美化活動以外にもイベント、プログラム提供、安全点検等での展開が見られる。また、数は多くないが、これまでの市民参加による実績を生かし、指定管理者として公園あるいは公園施設の管理運営を担うまでに至った例もあった。

【キーワード】

公園管理，市民参加，ボランティア活動，指定管理者制度

オンツツジの見所づくりに係る最適な光環境の予測と管理基準の考察

尾澤 彰

【要旨】

国営讃岐まんのう公園地内飛竜木もれびの道におけるオンツツジの見所づくりにあたり、光環境に係る管理基準について考察を行なった。

オンツツジの十分な着花を確保し、かつ除草コストを抑える照度を予測した結果、相対照度 40%で 80%の着花を得られ、相対照度 18%以上で 75%以上の着花が期待できること、相対照度 57%以下で下層植生の地上部現存量を絶乾重量で 70g 以下に抑えることが明らかとなった。植生区分別に見ると、アカマツ林と疎林では同等の着花が期待できるが、亜高木層でソヨゴが優占すると着花率が低下し、疎林においては下層植生の地上部現存量が増加することが明らかとなった。また、空の面積率を用いて間伐率を検討した結果、開空度 25%以下の林分を対象に 50%を上限として間伐を行なうことが適当であることが示唆された。

これらのことから、アカマツの樹冠を保ちつつ亜高木層のソヨゴなど常緑広葉樹を中心に、開空度 25%以下の林分を 40%程度に改善することが管理基準として提案された。

【キーワード】

オンツツジ，着花率，相対照度，開空度，地上部現存量

コスモスのプラグ植付に関するまとめ

神谷 美之

【要旨】

毎年、コスモスの播種時期や育苗期間中の雑草による問題が悩みとなっており、いかに解消できるか色々試行してきたが今回プラグの植付けを実施した結果、一気に問題が解消された。今回は一連の作業内容や、プラグに変更したことにより問題の解消へ繋がったこと、また次年度へ向けての更なる問題点等のまとめを行った。

【キーワード】

ポピーの開花期間の延長，除草の取り止め，経費削減

利用予測に基づくトイレ施設の運営について

難波 良憲 酒井 秀徳

【要旨】

国営昭和記念公園では、年間を通じた公園利用において1日の来園者数が5万人を越える「超繁忙期」と位置づけられる日がある。この超繁忙期では、女性トイレに長蛇の列ができ快適なトイレの利用空間が提供できているとは言い難い。そこで超繁忙期となるゴールデンウィーク期間中の仮設トイレの導入の実施検証と園内のトイレの混雑状況について調査した。その結果、①仮設トイレを設置することによりトイレ待ちの列を軽減することができた ②こどもの森エリアにおいてはエリアの利用者層と仮設トイレの利用層が重なり効果的である ③便槽の汲み取り量より仮設トイレの設置基数についてさらなる改善が可能である ④園内トイレの混雑状況の調査からこどもの森エリア、原っぱ南エリアにおいては何らかのオーバーユース対策が必要であることが把握された。仮設トイレは、利用状況を予測するとともに適数適所に設置することにより来園者の利用満足度を上げる即効性のある有効な手段である。

【キーワード】

利用予測, 仮設トイレ, 女性トイレ, オーバーユース対策

自然発見館における環境教育プログラムの学校団体利用促進に関する研究

～利用傾向分析・取り組みと今後の展開について～

峰岸 徹

【要旨】

国営木曽三川公園・河川環境楽園自然発見館は、川の自然と文化の環境共生をテーマとした公園である。公園で行われている「環境教育プログラム」の効果的な利用促進を図るにあたり、カテゴリーにおいて大口利用を占める「学校団体利用」に焦点をあて、利用傾向の分析と、平成20年度における取り組み事例の報告、それらを踏まえた今後の展開策をまとめた。

【キーワード】

国営公園, 環境教育, 利用促進, 総合的な学習の時間

吉野ヶ里歴史公園における日常としての来園特性の把握について

松本 和也

【要旨】

本研究は、吉野ヶ里歴史公園への来園に影響すると考えられる事象について、それぞれがどのような関係性を有しているか把握することを目的とする。ここで、この事象とは気温などからなる気象状況、公園で催されているイベントなどからなる園内状況、HP アクセスや各種メディアでの掲載などからなる広報状況などとし、来園者数とこれらとの関係性について、本研究における「来園特性」として分析を行う。分析の手法としては、より客観的なものとするため重回帰分析を用いて行い、またここで取り扱うデータは、将来的に公園と周辺地域との関係性を分析することを見据え、より地域との結びつきが強い日常的なものとする。これにより、吉野ヶ里歴史公園における日常における来園特性の現状の把握を行い、今後の効果的な展開について方向性を検討する。

【キーワード】

日常, 来園特性, 相関係数, 重回帰分析

ネットリサーチ手法を活用した潜在顧客のニーズ把握に関する研究

小林 雅彦 江淵 裕子

【要旨】

本研究は、国営公園をほとんど利用したことのない「潜在顧客」に対するネットリサーチによって、認知度やニーズ等を把握し、今後の利用促進策に活用することを目的に実施したものである。

まず潜在顧客を抽出するための約5万人を対象とした「事前調査」を実施し、各公園の認知度を把握した。続いて約4千人の「潜在顧客」を対象とした「本調査」を実施し、各公園への今後の来園意向やイベント等への期待、レジャー情報の認知媒体等を把握した。

各公園の認知度からは、新たな魅力の創出が必要な公園、情報発信等に創意工夫が必要な公園、更なる認知度向上策が必要な公園の傾向を把握した。また、公園やイベントへの期待からは、「名前も知らなかったし、訪れたこともない」方ほど、安全・快適な空間の中で自然や花に触れるということへの関心は低く、スポーツや動物との触れあいなど、アクティブな行動への関心が高い傾向にあることを把握した。

【キーワード】

国営公園、潜在顧客、ネットリサーチ、認知度、利用ニーズ

国営明石海峡公園神戸地区における参画団体群の ソーシャル・キャピタル形成と利用増進の可能性

赤澤宏樹 中瀬勲

【要旨】

平成18年度から平成20年度まで、国営明石海峡公園神戸地区において一部の公園運営を開園前から試行するアクションリサーチを実施し、参与型調査とアンケート調査を通して公園運営への市民参画の有効性・実効性とソーシャル・キャピタル形成の可能性を探った。パーク・マネジメントの要素である①利用、②管理、③運営の全てに参画団体群の一定の参画を試行した結果、ソーシャル・キャピタル形成に対しては、市民組織群の運営に多くの参画の機会を設けることが有効であると認められた。公園利用に対しては、参画団体群での協働の管理作業と、参画団体毎の利用プログラムの実施を組み合わせることが活動意欲の活性化につながっていた。また、今後の活動意欲に対しては、団体毎の活動を支援することと、管理に関する協働プログラムを実施・支援することが有効であることが伺えた。

【キーワード】

パーク・マネジメント, ソーシャル・キャピタル, 利用増進, 国営明石海峡公園神戸地区, アクションリサーチ